

中田喜文・電機総研〔編〕・日本評論社(2009年12月20日発行)

高付加価値エンジニアが育つ  
—技術者の能力開発とキャリア形成—

本書の編集責任者である中田喜文同志社  
大学大学院教授は、京都で毎年1月に開校  
している金属労協主催の労働リーダーシッ  
プコースの運営委員であり、「労働組合と社  
会く仕事と処遇」をテーマとするゼミナ  
ールの担当講師として受講生を指導してい  
た。

本書は、日本のものづくりの当事者であ  
る電機連合と、企業における人と仕事をも  
つばら研究対象とする中田教授をはじめと  
する研究者による共同研究の成果である。  
両者は、「日本人の生活の在り様とこの国  
の豊かさが、技術者が携わる研究開発活動  
の成果である『イノベーション』にますます  
大きく依存していくとの認識」で一致する  
と共に、もう一方で「そのように大切な研  
究開発活動を取り巻く環境、とりわけ技術  
者の活動環境が近年劣化している」との認  
識で一致した。本書はこの後者の問題意識  
の共有化を図るために2007年夏から開  
始した2年間の共同研究の成果をまとめた  
ものである。

全体は、第1章「日本の技術者」、第2章  
「ヒアリングから浮かび上がる技術者のキャ  
リア」、第3章「技術者のワーク・モチベー  
ション」、第4章「技術者のキャリア形成」、  
第5章「技術者の能力開発と高業績」、第6  
章「高業績」技術者を育む経営」、第7章

「日本の技術力を支える技術者の未来」の7  
章で構成されている。

全体を通じた要点を3点にまとめている。  
①最初に与えられた仕事と技術者の能力・  
適性とのマッチングがよく、職場のサポー  
トを得ながらその職務をうまくこなせるよ  
うになるかが、その後のキャリアの成否を  
決める。②その初職で小さな成功体験を持  
つことで、自分自身の技術に自信を持って、  
その自信が、その後の働き方、意識、自己  
啓発にプラスの影響を与えることで、技術  
者としてのキャリアの成功につながる。  
③キャリアの成功は、決して本人の努力や  
能力だけで決まるのではなく、個人を取り  
囲む同僚、上司、さらにはより広く組織の  
在り様が、技術者のイノベーション力に対  
して、極めて大きな規定力

を発揮する。

中田教授は、「終わりに」で、技術立国  
日本をめざして、経営者、労働組合、そして  
技術者みずからがなすべきこと、を提言し  
ているが、特に労働組合に対して、「労働組  
合は、伝統的ともいえる、賃金、労働時間  
の改善交渉から、仕事マッチング、キャリ  
ア開発、そして職場環境の改善交渉に、そ  
の努力と資源を振り向けるべきである。そ  
れは、日本の技術者が高い仕事満足、自己  
実現を行うためにも、日本という国がこれ  
からも高い創造性を維持していくためにも、  
必要となるからである。技術者に優しい労  
働組合に転換することは、技術者を取り巻  
く社会にも優しい労働組合への転換である」

と述べている。(美)

